

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270102942		
法人名	長崎貿易産業株式会社		
事業所名	グループホーム華の苑		
所在地	長崎市中里町1188-1		
自己評価作成日	平成22年9月5日	評価結果市町村受理日	平成23年1月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成22年10月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周りを山、川に囲まれた自然豊かな地域の中でご入居の皆様を初め、ご家族様が安心して生活出来るように報告・連絡・相談を行い地域の皆様ご家族様を含めたチームケアを目指している。又、様々なことへの試み(行事)をスタッフの自由な発想にて行い、ご入居の皆様の生活に生きがいを感じて頂ける様に一人一人の要望にも答えられるケア作りを目指している。又、介護スタッフは共同生活を通じて家庭的な環境の中で日常生活における援助などを行い、認知症の進行を穏やかにし精神的に安定し個人の尊厳が保たれ、健康で自分らしい生活が送れるように支援して行く。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ご利用者はリビングで過ごされることが多いが、22年度、リビングのテレビが新しくなった。壁掛けタイプとなったことから、窓からの眺めが更に良くなり、裏山の景色を楽しんで頂いている。代表の思いは着実に職員に受け継がれ、“自分の親を入居させたい、自分自身が入居したい”と思えるホームになってきている。日々の暮らしの中では、毎朝、玄関の掃除をしながら、そのままお散歩に出かけたり、一緒に買い物に行くと、買い物カートを押してくださるご利用者の姿は日常となっている。干し柿作りや梅酒作りをご利用者と一緒に行っているが、昔の話やご本人の要望等が伺える事も多い。ご利用者の要望もあり、自治会副会長に協力頂き、航空写真や歴史資料を使って“古賀の歴史”についての勉強会も行われた。島原への日帰り温泉や、芋ほり、桜・コスモス・菖蒲観賞、ペンギン水族館見学など、毎月1回は全員で外出できるような行事も行われており、楽しみの一つとなっている。外出がストレス発散になる事を職員は理解しており、暖かくなったら、更に外出する機会を多く取り入れていく予定である。職員の方々は、ご利用者と過ごす時間が楽しいと話され、職員とご利用者の笑顔が溢れるホームとなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議の際の理念の唱和。リビング・外壁の掲示板にも掲示し地域の皆様訪ねてくる皆様にもご理解して頂けるようにしている。	ご利用者を主体とした暮らしや、“自分の親を入居させたい”と思えるホームに・・・という思いが理念に込められている。ご利用者の気持ちを受け止められるケアを目指しながら、ご家族にも安心して頂けるケアが行われている。より良いケアを目指すために、月に2回の会議の際に理念の唱和を行うことで、職員の意識が高まっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の参加・地域の消防団、警察署挨拶など行事や会議などの際には声を掛けさせて頂き、出来るだけの参加を呼びかけている。	地域の方々とは馴染みの方も多い。清掃や夏祭り、マラソン大会の応援等へ参加したり、苑内の畑での芋掘りに地域の方をお招きしているが、セリや玉ねぎを頂くこともある。家族通信を地域の方にも回覧し、ホームの取り組みの紹介も行われており、災害時に応援頂ける“ご近所協力隊”も結成されている。	保育園児や小学生との交流の実現や、健康維持のための栄養指導教室の開催など行い、地域の方々が気軽に訪問して頂けるようなホームを目指していきたいと考えられている。運営推進会議の回数も増えており、更なる取り組みに期待していきたい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の際、市の協力でお年寄りの体験装具を貸して頂き参加者の皆様に体験して頂いたり、トロミを混ぜた飲み物を実際飲んで頂いたりして体験して頂いている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価を初め地域交流の必要性を話し、運営推進会議の充実と、そこから皆様が求めている情報の発信を心掛けて行きたい。	22年度より、2ヶ月に1回、会議の開催が行えるようになっていく。会議には、ご利用者、ご家族、地域包括支援センターの職員、自治会副会長、民生委員に参加頂いており、写真を投影して、日常生活や行事等を参加者に見て頂いている。地域の方より“大変な仕事ですが、頑張ってください”と労いの言葉を頂いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護更新の際ご入居の方と一緒にいたり、毎月の機関紙の持参を行っている。今後も様々な相談をさせて頂き身近な関係作りを行いたい。	市主催の研修会に参加したり、申請等で市の窓口を訪問した時などに家族通信をお渡しし、ホームの状況等をお伝えしている。「新聞を見ただけで、(ホームの事が)よくわかります」と言う言葉も頂いている。“キャリアパス”等についての質問をした時も、親身に対応頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修初め、グループホーム協議会、地区会などで学び、他の事業所が取り組んでいる情報など情報交換を行っている。	身体拘束廃止委員会の担当職員が“身体拘束”にあたる行為について調べ、研修の場で伝えている。鍵を掛けない暮らしの大切さを理解し、自由に出入りして頂いている。夜間転倒の恐れがある方は、見守りの回数を増やす等の対策を取り、ご家族には面会等や電話にて対応方法の説明が行われている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	県や市の研修に参加して学んでいる。又、声掛け一つにしても適切では無い時などは注意し改善に努めている。			

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や勉強会に参加し学んでいる。又、必要なご家族からの相談により、市などに問い合わせたり同行して支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の解約の際移転先との連携、情報の交換を行いご家族様、ご本人が安心して生活できるように支援している。又、時間がある時は、ご入居の方と一緒に面会に行かせて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者委員を設置しており、玄関や契約書に記載し連絡が取れるようにしている。又、気軽に意見等話せるように、毎月の写真にコメントを載せ随時状況を把握して頂いている。	運営推進会議の時に、ご家族から「行事なども、できれば是非参加したい」との声があがり、誕生会などは特にご家族様の要望で行えるようになった。又、運営推進会議の開催を、2カ月ごとの第二水曜日と設定し、ご家族皆さまの了承を頂いた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回代表、管理者を含め懇親会をスタッフ二名ずつ順番で食事をしながら話す機会を設けている。	職員からの意見に基づき、業務改善が行われている。業務分担が一人に集中しないように、職員全員で行事企画等に関わるようになっている。職員から、ケアに関する意見も多いが、まずは実践し、再度意見交換を行う体制がとられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則の見直し、休憩室の充実など働きやすい環境作りを心掛けている。いいこと箱を設置し職員同士良い所を記入しポイントを付け給料に加算している。いいこと箱は、代表者のみ見れるようカギ付になっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は異業種の会に参加し講習を受けたり、職員は、各担当の委員会にあう研修には参加して貰っている。参加費は、事業所が負担しその日は勤務としている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会や地区会の研修など管理職のみの出席ではなくスタッフの参加も呼びかけて行っている。又、他の施設さんへのスタッフ訪問研修交流会などの企画も上がってきている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居される前にご本人様、ご家族様の要望又は、主治医にお話を伺っている。継続して主治医を行う事により、ご本人様、ご家族様の安心が得られている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用に至るまでは、時間をかけ自宅又病院へ訪問しご本人を初めご家族様と話を行ない情報の収集に努めご利用の時には、快適に生活出来るように努めている。キーパーソン以外のお話情報収集にも努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談があった際に対応の優先順位を相談し、問題解決出来るように他のサービス機関や包括支援センターに協力を頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	年間行事の企画作りにもご入居の方に参加して頂き必要な食材、物品などを教えて頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々生活している様子を写真・コメントでお知らせし、要望や助言を頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで行き付けの美容院に定期的に行ったり、以前いた施設への訪問など支援している。	ご本人が以前入居されていた施設を訪問し、馴染みだったご入居者や施設のスタッフの方とお会いしたり、近所のお店に買い物に出かけては、馴染みの方から声をかけて頂いている。ご利用者の希望で、自治会副会長に協力して頂き、航空写真や歴史資料を使って、“古賀の歴史”についての勉強会が行われた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	少人数で外出しお互い助け合い協力しながら情緒を楽しんで同じ空間にいる事で互いが必要な関係作りを目指している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族より現在の本人さんの様子など手紙などで頂き、又、面会に行くなどして今利用されてるご入居様へ報告をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	多くの笑顔が見られる場面を重要視して、毎日の対応に心掛けている。	干し柿作りや梅酒作り等、ご利用者と一緒に作業をする中で、昔の話やご本人の要望等を伺えることも多い。ご希望を上手く表現できない方は、表情や行動から思いを把握するように努力し、より多くの笑顔が見れるよう、様々な試みに向け職員間で知恵を出し合っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を主治医やご家族様キーパーソン以外も頂けるように情報を収集して、ご本人が望む生活に少しでも近づけるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	座って出来る食事の下ごしらえや、洗濯物を干す方、たたむ方、ほうきで掃除をする方などその方がストレスにならない所での日常生活の充実に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族様の意見はもちろん、医療関係者・以前いた施設・面会に来られるご友人の意見を頂き参考にしている。	計画作成担当者を中心に、職員全員でアイデアを出し合いながら、自立支援の視点で計画が作成されている。玄関の掃除や買い物、お散歩、外出等、ご利用者の役割や楽しみ事などが計画に盛り込まれている。ケアプランに基づいたケアが実践されており、職員間でケアの統一が図られている。ケア会議にて見直しが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録・申し送りに記入し情報の共有をしている。又、それぞれご入居様の担当が決まっており、会議の際発表し解決策を皆で話しあっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望はじっくりお伺いし、極力実現出来るようにスタッフ間で話し合い対応している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月の家族通信を自治会への配布や、行事・お知らせなどの時もそれぞれのご入居者様と一緒に持参している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人が以前よりお付き合いがある専門医を継続している事で、ご家族の安心はもとより生活歴などの把握も専門的な目線での助言もある。	職員が通院介助を行っており、電話でご家族に報告すると共に、月に一度郵送する家族通信・請求書と共に、受診報告書を送っている。認知症専門医にホームに来て頂き、職員に助言をして下さったり、歯科医師による口腔ケアや昼食時の同席を依頼し、嚥下や咀嚼の様子を見て頂いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の状態を記入し、ファックスで送り情報を共有している。又、様々な受診皮膚科、眼科、など受けた際にも報告を行い情報を共有して頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報の提供を敏速に行なっている。又、面会に伺いご家族様、病院の皆様より情報を頂き退院後の対応に心掛けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に対する方針を定め、ご家族・医師・看護師を交え話し合い方針を共有している。変化がある度に家族の気持ちの変化に注意しながら支援している。	医療行為が必要になった場合は、ホームでの対応は難しい事を事前に説明し、ご本人、ご家族に了承を頂いている。医療連携を取っている主治医の往診(毎週木曜日)と合わせ、日々の報告を看護師にファックスし情報の共有を図っている。日頃から重度化しないように健康管理に注意し、口腔ケアや栄養面にも配慮した取り組みが行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応の自主訓練を定期的に行っている。又、外部より介護に長く携わって来ている方に月に二度程度来て頂きご入居の方々の様子、生活の中での危険具合など助言を頂いている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ご近所協力隊の体制をご近所の皆様と、とらせて頂いている。又、避難場所を設けており訓練の際は、皆で確認を行っている。訓練には、ご近所の皆様の参加の呼びかけも積極的に行っている。	地域の5世帯のお宅に“ご近所協力隊”になって頂き、ご利用者、火災報知機器業者、消防署職員、地域包括支援センターの方にも参加頂き、年2回の昼夜を想定した訓練が実施されている。24時間対応の警備会社との契約も行われている。災害時に備え、食料、飲料水、懐中電灯など2週間分程度の備品が準備されている。	

自己 外部		自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員がお互いに注意し合い言葉掛け・対応にきを付けている。個人情報の取り扱いには、管理者・ホーム長の点検等により徹底している。	職員は、ご利用者の人格を尊重し、羞恥心や自尊心に配慮した声掛けや対応を心がけている。申し送り時は、ご利用者に配慮して名前を出さずインシヤルで会話している。言葉かけなど、馴れ合いにならないような配慮が行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲み物(冷たいもの・熱いもの)を尋ねたり、意思が困難な方には、手に持って頂き感じて貰い表情で確認している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理に起床させず自分のペースにあった支援を行っている。長く居室にていられる方は、きがけて様子を伺っている。家事手伝いなどストレスに感じない程度日々対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事などの際にお化粧や整容の支援を行っている。又、馴染みの美容師さんに定期的に来て頂いている。又、通いなれた美容室への支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	過剰な介護にならないよう注意しご入居の方の好みを伺い献立の作成に役立て、簡単な下ごしらえや後片付け等一緒に行っている。職員も同じテーブルで楽しく食事が出来るようにしている。	ご利用者に「何が食べたいですか」と希望を聞きながら献立が作成されており、ご利用者と一緒に買い物に行き、旬の食材を選んで頂いている。食材の買出しから下ごしらえ、片付けなど、ご利用者と一緒に行っている。皆さん手作りの梅酒が出され、テーブルには、季節の花が飾られ季節感を感じて頂いている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	イン・アウトの表に記載し確認しながらそのつど声をかけている。その方にあった摂取量を把握し、その方の調子を確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事の後の口腔ケアの呼びかけや意志疎通が困難で拒否が強い方も様子を見てうがいだけでも行っている。又、協力歯科医師の先生に月に2度往診に来て頂いている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の排泄表に基づき尿意の無い方でも時間を確認してトイレ誘導を行い、トイレにて排泄出来るように支援している。	日中は全員トイレを利用して頂き、排泄表を確認し、一人ひとりの排泄感覚にあわせてトイレ誘導を行っている。間に合わずに失敗された時は、羞恥心に配慮してさりげなく声かけを行い、シャワー浴を行うなどの対応を行っている。オムツやパッドの必要性については、ケア会議の中で話し合いが行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	果物、ヨーグルトなど通じがよくなるような物や水分の補給に勤めている。主治医の指示のもと便秘薬を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決めているがその方が楽しみにされている方もいる。失禁時など常にシャワー浴を出来るようにしている。	入浴時間や回数、湯温など、出来るだけご本人の希望に沿えるよう支援している。安全面に配慮し、状況に応じて職員2名での介助が行われ、入浴中は唱歌や童謡を聴きながら気持ちよく入浴して頂いている。入浴剤をご利用者に選んで頂いたり、季節に応じて菖蒲湯や柚子湯なども取り入れられている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	部屋の温度・除湿・においなどに気をつけゆっくり過ごせる環境を整えている。就寝に向けてのリズムが安定するように、寄り添い声掛けをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬の情報を挟めており、全職員が把握出来るようにしている。服薬時は必ず職員が確認し困難な方は、介助にて支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お孫さんへのマフラー作りの呼びかけ、お手伝い。習字の時間。年末お世話になった先生方へ、お礼の色紙を準備し直接渡して頂いた。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご希望によりご主人様とお会いする機会が増えた。買い物の回数が増えた分外出の回数も増え、ご希望の品を購入して貰っている。ご近所の方がお世話して頂いている畑での収穫では、皆さんで出かけ収穫している。	島原への日帰り温泉や、芋ほり、桜・コスモス・菖蒲観賞、ペンギン水族館見学など、毎月1回は全員で外出できるような行事が企画され、皆さんに楽しんで頂いている。外出がストレス発散の一つになると職員は理解しておられ、暖かくなったら、更に外出する機会を多く取り入れていく予定にされている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の際ご希望のお菓子、飲み物を購入して頂いている。支払い時は傍にいて、支援している。又、近くの自動販売機での飲料水の購入なども自由に行ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	他のご入居の方の面会がある時など、羨ましく感じたりと察した際など電話にてご家族様に了解を頂いてから実施している。手紙などスタッフが手伝いながら書く場面も設けている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度差が無いようにエアコンにて調節を図っている。テレビの音量など不快感が無いように自由に座って頂きながら、テレビなどの物を動かし配慮している。又、季節の物で干し柿や七夕、クリスマスなど共同の空間から見える場所に設けている。	リビングには、新たに壁掛けテレビが設置されたことで、窓からの眺めが更に良くなり、裏山の景色を楽しんで頂いている。ご利用者の重度化に対応できるように、ホーム内にはエレベーターが設置されており、随所に手すりも設置されている。テーブルには季節の花が飾られ、壁にはご利用者の顔写真入りのユニークな貼り絵が掲示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	事務所、スタッフルームを提供し好きなテレビを見たり、気の合う方同士での談笑の場になっている。又、共用の空間において広めのソファを幾つか並べており、自由に過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活歴などを確認し、舞踊の際使用していた扇や今まで頂いた賞状など思い出の品を居室に飾っている。又、大好きな花やお孫さんの写真を飾り、その方にあった居室作りを心掛けている。	ご利用者、ご家族と相談しながら、馴染みの物など持参して頂いている。部屋には花や賞状、写真などが飾られ、タンス、仏壇、鏡台などを持ってきて頂いている。面会に見えた家族や犬と一緒に居室にてくつろいで頂いている。“その人らしさ”が出せるようなお部屋にしたいと、それぞれの担当職員がお部屋作りに取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関、廊下、階段、トイレなどに手すりを設置している。又、トイレを一つ新設し快適な生活が送れるように心掛けている。転倒の恐れがある方の居室には、予防のマットを敷いている。		

事業所名: 長崎貿易産業株式会社 グループホーム華の苑

作成日: 平成 23 年 1 月 13 日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】 注)「項目番号」の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	29	ご入居の皆様の生活が豊かになるように、地域資源を十分に把握する。	地域の学校、幼稚園・保育園生の慰問	地域の学校などへ、華の苑の新聞を持参し様々な行事の参加から呼び掛ける。	12 ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月